

チューリップ



別名	鬱金香
植物分類	ユリ科チューリップ属
園芸分類	球根植物・多年草
原産	中央アジア、北アフリカ
花言葉	思いやり

チューリップは地中海沿岸から中央アジアにかけておよそ150種が分布し、その中の1種、トゥーリパ・ゲスネリアーナから改良された園芸品種が、最も親しまれています。代表的な秋植え球根であり、寒さにとても強く種類も豊富で、冬季の水やりを忘れなければ、まず咲いてくれるとても丈夫な球根植物です。

栽培特性・管理のポイント

< 定植 >

- 深植え付け時期は、10月から11月上旬が適期です。あまり遅いと十分に根が張れず成育に支障が出ます。
- 用土は、有機質に富んだ水はけのよい土を好みます。庭植えの場合は、よく耕して、粘土質で水はけが悪いようであれば、腐葉土や堆肥を適当に混ぜ込んでおきます。プランターの場合は、赤玉土（小粒）6・腐葉土3・川砂1という配合割合が適当でしょう。
- 植え付ける深さは、庭植えの場合は球根2つ分、プランターの場合は球根の頭が地面から2cmくらいの深さにくるように植えます。
また、植え付ける間隔は、10cmおき、あるいは球根2個分くらい離してというのが一般的ではありますが、球根1個につき花は1輪か2輪しか咲かないので、ぴったりとくっつけて植えた方が、咲き乱れてきれいに見えます。

< 管理 >

- 毎日当たりのいい場所（戸外）で育ててください。
- 植え付けてから芽が出るまでには結構時間がかかりますが、土の中では根が張りめぐらされているので、土を乾かし過ぎないように水やりを行います。乾燥に弱いので、冬でも土が乾いていたらたっぷりと与えるようにします。
- 肥料は、元肥として草木灰や緩効性の肥料を混ぜ込んでおきます。
芽が出てきたら、カリ分の多い液肥を10日に1回くらい与えるようにします。
- 春になり暖かくなるとアブラムシが発生しやすくなります。モザイク・ウィルスを感染させますので、オルトラン粒剤を地面に撒いて防除します。

＜ 花がら摘み ＞

- 開花時期は大体3月から5月中旬にかけてですが、花びらが散ったら花の部分（子房）を折り取ります。

子房はそのまま付けておくと種ができ、余分な栄養が取られてしまいます。

葉と花茎は球根に栄養を貯えるためにとっても大切な部分なので、自然に枯れてくるまで決して切り落とさないように気を付けて下さい。

＜ 花後の処理 ＞

- 6月頃に葉が黄色く枯れてきたら掘り上げて陰干しして表面の土を落とし、球根が分かれているものは一つずつ丁寧に分けます。

目の粗いネットなどに入れて、風通しがよく雨の当たらない室内や物置に保存します。